

2017 年度の鈴鹿 8 時間耐久ロードレースも終わり号外 3 号として報告させていただきます。

《鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 決勝レポート》

・7月 27 日（木）フリー走行

フリーの練習走行から始まった鈴鹿 8 耐レースウィーク。ここに至るまでテスト走行でレースに向けての準備はしてきたので、まずは、ライダーとマシンのチェックだけが主な仕事でした。そして簡単に終わると思っていた所に落とし穴が潜んでいるもので、スペアのバイクが、まっすぐ走らないとライダーから訴えがありました。

2 週間前までは、問題なく走っていたバイクがここに来て急に問題が起り、原因を探したものの発見できず、残された 1 台のバイクで戦うことを余儀なくされました。耐久レースは長丁場になるため、通常は 2 台のバイクを用意して何かあった場合はスペアのバイクに乗り換えたり、パーツ取りに使用したりします。また決勝レースまでのスケジュールは非常にタイトで、転倒などがあった場合は時間的に満足に修理することができません。



何もなければそれまでですが、まさか初日に、こういった状況になるとは思いもよりませんでした。

・7月 28 日（金）予選

今年からのレギュレーション変更により、予選順位は 2 名、もしくは 3 名の平均タイムで決まることになりました。ということは、3 人がそれなりのタイムを出す必要があり、と同時にリスクも上がることとなります。

予選は各ライダー 2 回ずつあり、まずは第 1 ライダーの和田選手からの予選の攻撃です。

今回は非常に調子が良く、2 周目には去年のベストタイム近くまで伸ばし、攻撃に入った 3 周目の 200R でまさかのハイサイド転倒、、、。ピットの画面に映し出された映像にはカウルが吹き飛んだバイクと、横たわり動かない和田選手。時速 180km を越える高速コーナーのため最悪の事態もよぎりましたが、コースマーシャルから、意識はしっかりしているとの情報。一安心するものの 30 分後には第 2、第 3 ライダーの予選が始まります。マシンの損傷具合を確認するとフロントホイールは割れ、シートレールは粉々、ガソリンタンクはつぶれ、2/3 ほどの大きさになっていました。

修理するには時間が間に合わず、仕方がなく問題のあるスペアバイクで第 2 ライダーの川瀬選手、第 3 ライダーの齊藤選手とタイムアタックをしますが、やはりまっすぐ走らず、走行すること自体が精一杯で、タイムを出すまでに至りません。

2 回目の予選が始まるまでは、約 2 時間半、その間で転倒したメインバイクの修理をすることに決め作業に取り掛かりました。修理したからといって問題なく走れる保証はなくメカニックも、ライダーも、ぶっつけ作業でしたが、第 2 ライダー川瀬選手の 2 回目の予選が始まった 5 分後に、なんとかコースに出ることが出来ました。幸運にもバイクに問題はなかったようで、普通に走行することが出来ました。それとは対照的に和田選手の様態は思わしくなく、右手、右肩、左足を強打しており、歩くことさえままならない状態でした。



結果 平均タイム 2' 15.870 総合 50 位

・7月29日（土）

この日は、4時間耐久レースがあるため、夕方にフリー走行が1回あるだけです。しかし、前日の転倒で応急処置だった箇所の確認、決勝レースに備えて交換したパーツの慣らしや、予選で転倒負傷した和田選手が、まだ走れるのかというのを見極めるためにも色々と重要な走行になる予定でした。

走行が始まり、修理パーツ等の確認は出来たのですが、肝心の和田選手が走ろうとするとコース上で転倒が発生し、走行が終了となりました。こうなると翌日の決勝前に行われるフリー走行で状態を確認し、決勝の作戦を立てるしかありませんでした。

・7月30日（日）

決勝前のフリー走行にてやっと和田選手の状態を確認し、痛み止めで飲んでレースに参加することに決定しました。スタートライダーは、2週間前に初めてチームに加入してくれた、齊藤選手。2番手には昨年から引き続き参戦してくれた川瀬選手。午前11時30分、雲空の中例年とは異なり比較的穏やかな気温のなか、伝統のルマン式スタートにより決勝の火蓋が切られました。

スタート直後から広がっていた雲は、やはりというか、コース上に雨粒を落としてきました。しかしレインタイヤに交換するほどの雨脚はなく、ドライタイヤで我慢を強いられる走行になりました。

2番手の川瀬選手に代わるころには雨はすっかり止んでいました。順調に走行を消化していくものと思われた矢先、オートバイのスクリーンに謎の液体が付着し、ライダーの視界を妨げていました。ライダーが、オートバイに異変を感じているわけではなく、外部からの付着と思っていたのですが、

3番手の和田選手の走行でも同じように液体が付着しており、オートバイからの液体漏れと思い、次のピットインのときに原因を調べることにしました。ピットインして調べると、汚れの場所的に最悪の場合はブレーキラインからの液体漏れと思っていたのですが、ステアリングダンパーにテープ？が噛み込み、そのためオイルが漏れていたのが原因でした。

その後順調に進むと思っていたのもつかの間、今度は電装系のトラブルで、エンジストップ緊急ピットインとなりました。コース上で止まったため、和田選手が満身創痍の中、バイクを押してピットまで帰ってきてくれました。また、ピットでは電装系のトラブル修復には長時間掛かることが予想されましたが、監督が偶然にも配線のショートしている箇所を発見し大きなタイムロスもなくピットアウトが出来ました。その後は、ライダー3人がトラブルでロスした時間を必死にコース上で挽回してくれ無事チェッカーを迎える午後7時30分まで、あと10分というところで最後のトラブルがやってきました。車両規則としてフロントゼッケンとリアゼッケンは自光式が義務付けられており、そのゼッケンが光っていないとの連絡でした。またレース規定としてたとえゼッケンが光っていても、走行は可能ですが、ピットインした際にはゼッケンを修理してピットアウトしなければならないという規則があります。ならば、残り時間も少ないのでチェッカーまでそのまま走行すればよかったのですが、ガソリンが足りなくなる可能性がありました。そのまま行けばガス欠でストップか、



ピットインして修理作業に手間取ればチェッカーを受けることが出来ません。チームが下した決断はピットインして修理でした。自光式のゼッケンは無機 EL シートを利用しており、それを光らすためにインバーターを組み込んでいるのですが、状況からそのインバーターが故障していると判断し、ユニット交換すれば治ると確信していました。後は時間との勝負です。

バイクがピットイン。外装がはずされ、インバーターユニットの交換。ゼッケンの確認、点灯。外装の装着、そしてたった1周分の燃料を補給しピットアウト。残り時間は1分30秒でした。

そして息つく間もなくチェッカーフラッグが振られ、2017年の鈴鹿8時間耐久レースが終わりました。

今年の8耐出場にあたって、レースウィーク中のスタッフが少なく、ライダーを含むすべてのお手伝いいただいた方々にはさまざまところで負担をかけたかと思えます。この場を借りてご協力いただいた方々、メーカー様、スポンサー様にお礼申し上げます。

2017年鈴鹿8時間耐久レースリザルト

チーム KMII Z-TECH

ライダー 和田憲史郎/川瀬和希/齊藤達郎

予選 50位 (2' 15.870) 総合順位 出走台数 68台中 (完走 57台) 49位

周回数 184周 合計時間 8時間1分6秒

